

W-1

移動経路の種類とそのコード化：通言語的ビデオ実験による移動表現の類型論再考

ワークショップ企画者：松本 曜（国立国語研究所）

言語がどのように空間移動を表すかについては、興味深い言語差があることが知られている。Talmy (1991) は、移動の経路が文のどの位置で表現されるかという観点から、世界の諸言語を動詞枠付言語と付随要素枠付言語に分類した。松本 (2017)は Talmy の類型論の用語的問題と概念的問題を議論した上で、移動の表現パターンを、文の主要部（主動詞）で経路を表現する主要部表示型と、それ以外の要素（接置詞、不変化詞、名詞格接辞など）で表示する主要部外表示型に分け、どちらが優位かによって言語を分類できるとした（Matsumoto 2003 も参照）。事情を複雑にしているのは、経路の表現位置が経路のタイプによって異なることである。たとえば、着点へ向かう経路(TO)は主要部外の要素、特に接置詞や格接辞で表される傾向があるのに対して、上方向の経路（UP）は動詞で表現されることが多い（松本 2017）。本ワークショップでは、諸言語の様々な経路の表現方法を統一的な通言語的ビデオ実験によって調査した結果を報告し、経路のタイプとその表現位置に関する一般化を試みる。それに基づき、移動表現の類型を再考する。

今回報告するのは、10 言語に関して様々な経路の言語表現を調査したプロジェクトの成果の一部である。具体的には、フランス語、タイ語、クプサビニ語、シダーマ語、タガログ語における、FROM, TO, TOWARD, PAST, VIA

(+BETWEEN/UNDER), ALONG, AROUND, INTO, OUT, ACROSS, THROUGH, OVER, UP, DOWN の経路に関する研究結果を報告する。これは、人がこれらの経路を移動するビデオ映像をコンピューター上で映し、それを各話者の言語がどのように表現するかを調べたものである。移動の様態は歩きと走りの2種類である。



調査対象の経路には、通言語的に見て、主動詞でコード化されやすいもの、主動詞以外でコード

化されやすいもの、またその中間的なものとして多様な形で表示されるものがある。つまり、これらは主動詞で表現されるかどうかに関して一定の傾向を持つ。その傾向を表示するのが図1の経路マップスケールである。

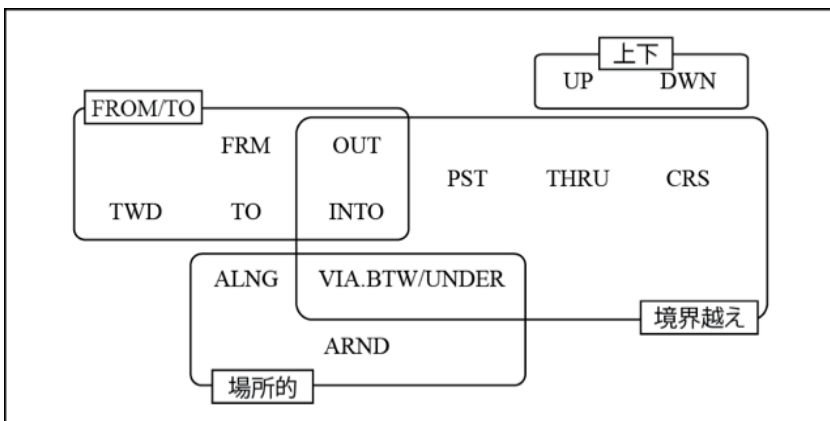


図1 経路マップスケール

これは、経路を a)上下方向を表すもの、b)境界越えを含むもの、c)経路局面(FROM/TO)を含むもの、d)場所的に理解しうるもの、という観点から分類し、さらに主動詞で表現されやすいものほど右側に配置したものである。(なお OVER については、使用したビデオ映像から OVER を表す表現をうまく引き出すことができなかつたため、ここでは考察から外している。)

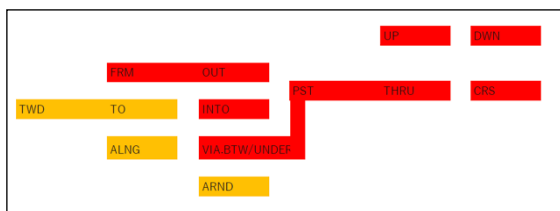


図2 タイ語

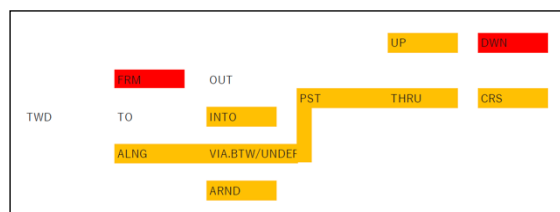


図3 クプサビニ語

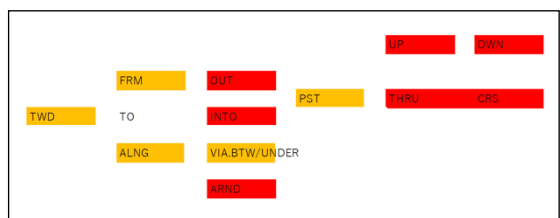


図4 シダーマ語

詳細な調査結果は、各言語についての発表の中で提示する。ここでは、全体の比較結果について述べる。図1のマップスケールに、タイ語、クプサビニ語、シダーマ語で、主動詞（あるいはそれに準じる動詞）によって経路が表現される度合いを示したのが、図2-4である（フランス語とタガログ語に関しては守田、長屋による発表資料を参照のこと）。これは、当該経路を表すために動詞が以下の形で使われた比率を示している。a)単文の主動詞、b)複文の主節の主動詞、c)重文のどちらか一方の節の主動詞、d)単文・重文における動詞連続をなす動詞のいずれか一つ、e)単文、重文で複雑述語をなす動詞のいずれか一つである。その比率が66.7%以上の場合に赤、33.3~66.6%の場合に黄、33.3%未満の場合に無色で表示している（当該経路について何ら言及していない回答は分母に入れていない）。一続きに着色している場合は、それぞれのシーンに対して一番多く使われた動詞が同じ動詞であることを示している。

従来の類型論では、経路を一括して扱って議論を進める傾向があった。しかし、本ワークショップの結果からは、上記のマップスケールにおいてどの程度広い領域を主動詞でコード化するかという観点から、程度性のある形で移動表現の類型を捉えることができる。

Matsumoto, Yo. 2003. Typologies of lexicalization patterns and event integration: Clarifications and reformulations. Shuji Chiba et al. (eds.), *Empirical and Theoretical Investigations into Language: A Festschrift for Masaru Kajita*. 403-418. Tokyo: Kaitakusha.

松本 曜. 2017. 「移動表現の性質とその類型性」松本曜編『移動表現の類型論』 東京：くろしお出版

Talmy, Leonard. 1991. Path to realization. *Proceedings of the Seventeenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*, 480-519.

*本プロジェクトは国立国語研究所の対照言語学プロジェクトの一部をなすものであり、科学研究費補助金（15H03206）の助成を受けている。